

議事録

名称	令和7年度 玉川地区学校適正配置地元代表協議会（第3回）
開催日時	令和8年2月12日（木）19時00分～21時00分
開催場所	玉川支所 2階 大ホール
出席者	【委員】 会長 外24名（教育長、副教育長を含む） 2名欠席（日の出保育所保護者・玉川地区自治会副会長）
	【その他】 玉川支所長
	【事務局】 今治市教育委員会、玉川地域教育課
傍聴者	6人
議題	1 前回出た質問や要望への回答について 2 望ましい学校のあり方について 3 意見交換

7 議事録（要点筆記） 文中（※）は補足した内容

事務局	<p>（当日配布資料の事前確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4 資料の修正に伴う差し替え ・資料5 統合場所（意見をもとにした統合案） ・資料6 統合校のあり方（魅力化・特色化）
会長	<p>本日はお忙しい中、第3回玉川地区学校適正配置地元代表協議会にご参集いただきましてありがとうございます。</p> <p>協議会開催にあたり、会議の傍聴希望がございますので、許可してよろしいか。</p> <p>（委員 了承）</p>
会長	<p>それでは許可する。写真撮影の希望があるので、会議の冒頭部分のみ許可をしたいと思うがいかがか。会議中は撮影を遠慮いただく。</p> <p>（委員 了承）</p> <p>（傍聴者 着席）</p>
会長	<p>ただいまから第3回玉川地区学校適正配置地元代表協議会を開催する。</p> <p>前回、第2回の会議録署名人は、主任児童委員のお二人、羽藤博美委員、森美香委員に署名いただいた。本日の会議録署名人を指名する。</p>

鴨部小学校PTA会長、青野宗三委員と九和小学校PTA会長、富田
洵也委員にお願いします。

(両委員 了承)

会長

前回の協議を踏まえ、玉川中学校での統合を選択肢に含めるため、今
回から新たな委員として参加いただく。

玉川中学校PTAから会長、矢野洋平さんと会長補佐、鴨川歩さん
のお二人である。

玉川中学校がある高野自治会から自治会長、清水宏幸さんである。

会長

それでは、これから次第3 議事に入る。

まず、「前回出された質問や要望への回答について」は事務局から説明
を受けた後、質疑応答したいと思う。

それでは事務局からの説明を求める。

(事務局 資料1～2を説明)

事務局

傍聴希望の方が今もう1人来られたので、許可してよろしいか。

会長

許可する。

(傍聴者 着席)

会長

事務局からの説明は終わった。ご意見、ご質問等ないか。

(委員 意見・質問なし)

会長

それでは、議事(2)望ましい学校のあり方について、に入る。

前回、全体スケジュールを示して欲しいとの意見があった。また、今
回は統合の是非、統合場所、新しい学校のあり方について、議論を進め
ていきたいと考えている。

これまでの議論、そして各学校でのアンケート結果を踏まえて、議論
を進めていこうと思うので、アンケート結果を委員に配布いただきたい。

(事務局 アンケート結果を配布し、説明)

会長

統合の是非については、(アンケート結果から)皆様にご了解いただけ

	<p>たと判断する。</p> <p>それでは、統合の場所、統合校のあり方について、事務局からの説明を求める。</p> <p>(事務局 資料3～6を説明)</p>
事務局	<p>会長、失礼する。傍聴希望の方が1名いらっしやった。</p> <p>この後も傍聴希望者が来られた都度、会議を中断するのは進行に差し支えるので、傍聴希望の方は随時お入れするということで、ご許可いただきたい。</p>
会長	<p>皆さん、それでよろしいか。</p> <p>(委員 了承)</p>
会長	<p>では、許可する。</p> <p>(傍聴者 着席)</p>
会長	<p>事務局からの説明は終わった。</p> <p>それでは次第3(3)意見交換とあわせて、事務局からの説明を踏まえ、新しい学校の場所、あり方を考えるにあたり、皆さんの立場から、課題・問題と思われることについて、発言いただきたい。</p>
A委員	<p>資料5の表面、これまでの議論をもとにした統合案のところは分かったが、裏面には統合案と書かれている。私は(この会に)全部出席しているが、この協議会で九和小学校が統合案になったことなんて一切ないと思う。</p> <p>これは事務局からの提案か。この協議会での提案か。どちらなのか。</p>
事務局	<p>皆様からのご意見ということで、アンケートも踏まえた統合案ということで、九和小学校のアンケートの中で…(回答途中)。</p>
A委員	<p>鴨部小学校のアンケートには統合校の選択をした回答者がいたにもかかわらず、結果がほとんど反映されていないように見える。中村地区の自治会長も「九和小学校でよい」とは述べておらず、九和小学校案が正式文書として示されることに納得できない。</p> <p>当初「委員全員で合意形成し、真摯に議論を進める」と説明されてい</p>

たが、事前の議論なしに九和小学校案が急に提示されたことに強い不満を感じる。鴨部側から見ると、この提示は真摯な対応とは言えず、公平性を欠くと思う。

「九和小学校でどうか」という提案は、イメージ戦略のように受け取られ、協議の結果ではなく事務局主導の結論ありきに見える。その案が「協議会案」として文書に明記されること自体に強い違和感と、不適切性を感じている。

事務局が「アンケート結果を基にする」と説明したにも関わらず、実際に反映しているのは九和小学校を選択した一部の意見だけであり、鴨部小学校側の回答や「九和小学校以外を選んだ回答者」の意見が反映されていない点が問題であるため、この統合案は「真摯なアンケートの扱いとは言えない」と思う。

前回提示された「玉川中学校案」については、理解できるものであり、ありがたいと思っている。

九和小学校案を「事務局の案」として提示するならまだ理解できるが、協議会として合意した案のように文書化されるのはふさわしくないとと思う。

事務局

今回出した統合案については、鴨部小学校と九和小学校、両方の小学校でアンケートをとっていただいた。鴨部小では玉川中学校という案が一番多かった。

九和小では九和小、玉川中学校、こちらがほぼ同数であった。

両方のアンケート結果をもとにして、統合案として、小学校統合する場合と3校で統合する場合を比較する形で、2つの案を今回提示した。

A委員

あんまり私は納得できないが、皆さんが納得されるならそれでいい。

B委員

第3回の協議会だが、第2回までは具体的な統合先（統合場所）についての議論はなかったと認識している。

現在および将来の児童数を考えると、統合せざるを得ない状況であると理解する。

今治市の第一次学校統合後、城東小学校区の地域では「公共施設がなくなると地域が寂れる」という実感を、公民館長として住民の声を受けながら経験した。朝倉地区でも上朝小学校・下朝小学校の統合後、卒業生の多くが地元の朝倉中学校ではなく今治東中等教育学校へ進学しており、地域に変化が生じていると感じている。玉川地域でも、鈍川小学校が九和小学校へ統合された結果、鈍川地区が目に見えて寂れている状況がある。

	<p>学校をはじめとする公共施設がなくなることは、地域にとって極めて大きなダメージとなるとの強い危機感がある。統合を進めることで人口減少がさらに加速し、地域衰退が進む可能性を懸念している。</p> <p>かつての玉川町長（村上忠美氏）や、玉川町の元教育長（藤山紀輝氏）が、町の衰退を危惧して学校統合に反対した結果、玉川町の学校は存続した経緯がある。現在も村上氏に話をすると、「そんな状況になっているのか」との反応があり、当時の判断への思いが伺える。</p> <p>児童数の現状を見ると、統合は「やむを得ない」という気持ちもある。しかし統合しても、将来的には複式学級化が進む可能性を強く懸念している。城東地区のように、統合後に地域がさらに寂れる状況が玉川でも起きるのではないかと危惧している。</p>
C委員	<p>中学校との統合案を提示いただき感謝する。</p> <p>いただいた資料で玉川小中一貫校と資料を作っているが、小中一貫校もしくは義務教育学校のどちらでお考えか。</p>
事務局	<p>小中連携という表現になる。義務教育学校ではない。</p>
C委員	<p>（小中連携校）ということは、校長先生は2人なのか、1人なのか。どういった体系になるのか。</p>
事務局	<p>施設が別であれば、小学校、中学校で校長が1人ずついるが、同じ場所なので、今治市内でいうと、岡村小学校、関前中学校が現在、管理職が1人の配置である。</p> <p>小中学生の人数が（関前地域に比べて）多いが、私がここで確実に数を申し上げることはできない。</p> <p>基本的に、同じ場所に（小中学校が配置と）なれば、校長が1名、教頭が2名配置される可能性はある。</p>
教育長	<p>先ほどの義務教育学校か小中一貫校かとの質問であるが、この2つの違いを申し上げる。</p> <p>義務教育一貫では、小中学校に校長が1人になる。</p> <p>小中一貫校では、小学校と中学校はそれぞれの学校として存続し、校長は2名となる。それぞれが特色ある学校経営を行いながら、小中の教育を連携・接続させる。</p> <p>先ほど事務局が申し上げたのは、小中9年間で地域と教職員が一体となって見守り、子どもの成長を継続的に支えることが最も重要な目的である。また、他校区への進学が生じることもあるが、地域の中で子ども</p>

を育て、義務教育から高校・社会へとつながる学びを保障する狙いがある。

そのため、まずは統合場所を決定することが先決であり、その上で義務教育学校とするか、小中一貫校とするか、小中連携校とするか、といった学校制度・魅力化方策について、改めて委員から意見を聞きながら検討を進めたいと考えている。

D委員

関連質問になるが、小中一貫校又は義務教育学校となった場合、小学校教員と中学校教員が双方の校種を教えることになるのか。

現状は、小学校教員は小学校のみ、中学校教員は中学校のみを担当しており、一体化すると教える範囲が「9年間分」に広がると思われる。

以前にも質問したが、現場教員が小中一貫化についてどのように感じているか、その意見・不安・方向性を知りたい。

教員の仕事量増大が避けられないと思われるが、どのような工夫や支援策を考えているのかをお聞きしたい。

事務局

教員の責務は「目の前の子どもを教育すること」であり、与えられた場で子どもたちに真摯に向き合い、地域とともに歩む学校をつくることが使命である。玉川地区の子どもに限らず、どの地域の子どもにも誠実に向き合う、という気持ちでいる。

小中連携校では、該当する教科の免許を持つ教員は校種（小・中学校）をまたいで授業を担当できる。例えば、理科免許を持つ中学校教員は小学校の理科授業を担当でき、小学校教員が中学校教科の免許をもっていれば、中学校側でも授業を担当できるので、教員間の交流ができると思う。

工夫・支援策として、教員の専門免許を活用することで、小・中それぞれの教員が持つ専門性を子どもたちの学びに還元できる。また、音楽・理科など専門性が高い教科において、小中連携によりより充実した指導が実現できると考えている。このような教員間の交流・協働により、子どもたちの学びの質向上が期待できる。

教育長

補足させていただく。

算数・数学、英語など「学びの積み重ね」が重要な教科では、小中連携が特に効果的である

□来年度、今治市は各学校にALTを1名ずつ配置し、生きた英語に触れる機会を増やす方針で、英語教育に力を入れていく。

玉川地区では、鴨部小・九和小・玉川中に各1名ずつALTを配置予定であり、小中連携が進むことで、複数ALTによる協働授業の実施可能性

が広がると考えている（確約はできないが期待される）。

小中連携により、中学校教員が小学校児童の様子を把握しやすくなり、情報交換も容易になり、中1ギャップの軽減につながることを期待される。

□また、中学校の専科教員（例：体育・数学）が小学校へ出向いて専門的な授業を行うことが、より容易になり、小学生が質の高い専門授業を受けられる環境が整うと考えられる。

E 委員

（委員の）皆さんに考えていただく材料の1点として、実際に（小中一貫校を玉川中学校で）やる（場合を考えてほしい）。

小学校は45分授業、中学校は50分授業である。同じ施設の中でチャイムが5分ずれて鳴り続ける。同じ校舎の中だったら、そういう現実が起こる。

もし小中学校が連携するにしても、小学校と中学校が別校舎であれば、別に問題ないが、同じ校舎の中ではそういうトラブルが起こる。

ましてや、小学校では大体12時ぐらいに給食を食べ始める。中学校は12時20分ぐらいである。

そうすると、その20分の間、中学生は授業できるだろうか。いい香りがして、小学生が給食を食べている。

これらのことが起こり得ることも前提に、色んなことも考えていただきたい。

D 委員

小学校の統合場所を検討するにあたり、資料に示された将来児童数（現在の0～2歳児が中学校に進学する時期）を見ると、10年後には玉川中学校の存続自体が議論となることが想定される。

小学校統合の準備に2年かかるとすれば、7～8年後には玉川中の適正配置（存続）をどうするか判断が必要となる。

小学校の統合だけでなく、玉川中学校を5～7年後に再検討するのか、今この協議会で将来方向性を示すべきか、皆さんの意見を聞きたい。

私には子どもが5人おり、3人が玉川中学校を卒業している経験上、九和小・鴨部小の児童でも高校進学を見据えて校区外の中学校へ進学する例が複数あり、将来児童数の推計を見る限り、7～8年後に全員が玉川中へ進学するとは考えにくく、さらに児童数は減少する可能性が高いと思う。

また、玉川中学校では、過去約10年間に部活動が廃部・休部となる事例が増えており、現役の保護者として、子どもが入りたい部活動があるなら、校区外であっても叶えてあげたい、という思いが強い。このため、中学進学時に市街地の学校へ流出するケースは避けにくい。

そのため、玉川中学校の存続をどう考えるかについて「地域としてどれだけ踏ん張れるか」「もはや踏ん張るのは難しいか」を委員全体で議論したい。

話がまとまっていないが、小学校の統合と中学校の将来適正配置はセットで議論すべきと考えるので、進行についてよろしくお願ひしたい。

会長

現実的に、そういう（児童生徒の流出の）話はあると思う。

また1回目2回目の話の時にも話題に出たが、魅力ある小中一貫校ということで、校区外から逆に玉川に生徒が来られないか、という話も出た。

そのあたりの何か知恵というかアイデアみたいなものがあれば、意見を述べていただけたらと思う。

教育委員会として、何かアイデアみたいなものはないか。

事務局

資料5、裏側の選定理由のうち、通学のところに記載をしている。

学校規模を維持するため校区制緩和、小規模特認校を導入するという書き方をさせていただいている。

現在の制度だと、校区制があるので、部活動等の理由により、市街地の学校へ流出するのみである。逆に、少人数教育を求める市街地からの流入を（校区制緩和・小規模特認校によって）考えている。

例えば、今、望ましい人数というのは基本方針の中でも示した1学級小学校は20人、中学校は1学級30人である。今の想定では、その（望ましい学級の人数に）不足する人数を、各学年、市街地から募集をかけるということも考えている。

会長

具体的に、もうちょっと何かいいアイデアみたいなものはないか。

市街地から玉川の学校に行きたいという特色のある学校にするためにどうするかという話になるとは思うが。

何か魅力がなければ、こういう校区制緩和しても来てくれなかったら何の意味もない。そのあたりを具体的にお話したいということである。

事務局

内部協議するので、お時間を頂きたい。

（暫時休憩）

事務局

先ほど資料6で説明した玉川小中一貫連携校の中で、トピックとしては、例えば英語教育の充実。小中一貫で連携して、色々な特色を出していく。

今現在、今治市内でも、小中が1つの校舎にあるのは関前地区の岡村小学校・関前中学校だけである。

陸地部でとなると初めてのケースということになり、連携校での学習といった部分を魅力に感じる方は、市内にもいらっしゃるかと思う。

また5年後6年後という話だが、そういった時に何ができるかということは、今の時点で踏み込んだご提案は出来ないが、こちら（資料6）に書いてあるような内容を高めていき、魅力のある学校作りを今後も進めていきたいと考えている。

会長

この問題はなかなか難しい話なので、時間のかかる話になると思う。

これから、統合場所を決めて、（統合場所が）決まってから、今言った英語教育以外にも、何か魅力がないと市街地から山の方へ足を運んでくれる生徒を集めるのは、なかなか難しいと思う。

それを、これからの（協議の）中で知恵を絞りながら、考えていくというのはいかがか。

今日、そういう具体的な話をしても、時間がかかる話になると思う。

D委員

事務局から九和小学校案・玉川中学校案が示されたことで、「どちらの場所にするか」を決める方向へ議論が進む流れに見えたが、私としてはこの順序は逆だと思う。

本来は、場所より先に「学校の魅力や特色、教育方針」を議論して決めるべきだ。

魅力や特色が固まらないまま場所を決めると、後から魅力づくりを上乗せするだけになり、「玉川中の場所で良かったのか」「小中一貫校が良かったのか」「小学校だけの統合で良かったのか」といった方針の揺れや再議論が必ず発生すると思われる。

「玉川の教育で何を大事にするか」「どんな学校を目指すのか」といった基本方針を委員全体で共通認識することが重要で、「ここは避けられない」「ここは玉川として守りたい」といった核となる価値観を共有した上で、最適な場所を議論すべき。

九和小学校か玉川中学校かの二択に固定せず、新設も含めた多様な案が本来議論されるべきだと思う。

せっかく皆が集まっているのに、未来の玉川をどうするかという議論ができないのはもったいないし、教職員の意見ももっと出してほしい。

会長

第1回第2回の資料を見ると、鴨部地区、九和地区、大野を中心に、児童数の偏りがあることが示されていたため、もし新設校を建てるなら、下鴨部付近に建て、清水小・日高小の一部も含めた広域の統合を検討す

る選択肢もあると感じていた。

アンケートでは「玉川中学校での統合」を望む声が強かったため、議論は自動的に玉川中学校に流れている印象がある。

本協議会で過去にも「今回の小学校統合が終わった後、再度適正化の議論が始まる」という指摘があった。私も児童数が減少し続ける以上、将来また別の統合・再編が必要になる可能性は認識している。

下鴨部付近に新設校を建てる案は、清水小や日高小を巻き込む広域統合として有効だと感じるが、現状はアンケート結果を重視する流れのため、玉川中学校案に収束しつつあると考えている。

D委員の言う中身（学校のあり方、魅力、将来構想）を深く考えるのであれば、「そもそも統合が良いのか」から議論をやり直す必要があるのではないか。

D委員

統合は避けられない。

小学校だけの統合がいいとか、中学校も巻き込んだ統合がいいのかというのを、皆さんどんな気持ちでここに来られているか。

F委員

違った視点から意見を述べさせていただきたい。

玉川町は蒼社川を境に、北＝九和地区、南＝鴨部地区に分かれており、北側には、国道・郵便局・JAバンク・JA営業所・美術館・福祉センター・玉川支所など主要な行政・公共機関が集中している。南側には四国88ヶ所の寺院、高齢者施設・中学校が所在する。

地域の将来発展を考慮すると、教育機関（小・中学校）を南側に配置することは有力な選択肢であると提案する。

私が北出身ではなく南出身である点を踏まえても、立場に関係なくこの案は合理的であると考えます。

少子化で児童数が減少している現状から、「中学校の校舎内に小学校を併置し、小中一貫型の体制にする」ことが現実的でより良い選択肢ではないかと考える。

学校運営の詳細は専門家に委ねつつ、まず「中学校敷地への小学校併合」という方向性が望ましいと考える。

北側・南側の複数住民への聞き取りでも、特段強い反対はなく、この案が妥当との声が複数あった。

中学校の存続問題は近い将来避けられないが、今回の統合議論とは別の場で扱うべき課題ではあるが、小学校併合と並行して中学校の「今後のあり方」の検討を行うことが望ましいと考える。

会長

玉川中学校は築約27年で比較的新しいが、九和小・鴨部小は耐用年数

が残り 10 年程度とみられ、老朽化が進んでいるため、将来的な建て替えが早晚必要になる可能性がある。

まずは玉川中学校へ統合し、児童数の推移を見たうえで、将来必要であれば、市街地に近い新しい場所に新設校を建てる選択肢も考えられる。

今後も様々な案が出てくる可能性があるため、固定的に場所を決めるのではなく、将来を見据えて柔軟に検討していく姿勢が重要と考えるが、いかがか。

D 委員

間違って解釈していたら良くないので確認だが、今の会長の話だと、今日のこの段階で、運営の仕方はこの後に（検討）するとして、とりあえず中学校を統合場所として決めませんかという質問をされた、と解釈していいか。

会長

それも 1 つの案ということで、提案した。

副会長

現役の P T A 関係の方に伺うが、もしこの場で、玉川中学校に統合するという意見が出されて可決されたとして、それを各学校に持ち帰られて、多分、総会か何かされると思うが、保護者は納得していただけるか。それだけの権限を持たれて、出席いただいているのか。

（この場で）決めるのは構わないが、（可決事項を）持ち帰って、各学校の保護者が反対した時にどうされるのか。非常に困った立場になられるのではという、余計な心配かもしれないが、お尋ねしたい。

D 委員

今この段階では、とりあえず中学校で（統合する）、と決まりましたとしか伝えられない。

（保護者の）皆さんが納得できるかどうかはわからない。

会長

1 度持ち帰って、各 P T A で検討していただけたらと思う。

副会長

我々としても、その方が確かだと思う。

この場だけで決めてしまったら、（出席委員に）ものすごく負担がかかる。

我々は会議に（所属団体）それだけの立場で参加しているが、P T A 会長はもう 1 つ責任が重い。

すごく色々な意見をいただく中で、誰がそんなこと決めたのかと言われた時に跳ね返すことができるなら、この場でこういう意見があったので、提案させていただくと言う。

そこら辺のところを、失礼だがお伺いしたかった。

G委員

今回の統合案はアンケート結果をもとに作成されたが、アンケートは統合の説明なしに保護者に配布された。小中一貫や統合の内容を「よく分からない」と回答した保護者も多く、十分な理解がない状態で意見を集約している。

統合場所（玉川中・鴨部小・九和小）のメリット・デメリットを公開し、比較しながら議論する必要があると考えている。

しかし現状は「場所ありき」で話が進んでおり、議論の順序に問題があると感じている。

それぞれの学校（鴨部小・九和小・統合校）として実現できる取組など、学校の特色や目指すべき教育像を先に話し合うべきであり、そのうえで、既存校舎が不適切であれば、新設校を検討することも現実的な流れだと思う。

以上のように、まず「どんな学校を目指すか」を全員で議論し、あらゆる選択肢を比較した上で、統合場所は協議の最終段階で決定すべきだと思う。

会長

もう一度、先ほど言われた合併の色々なメリット・デメリットを1回、PTAに持ち帰って、きちっと説明して、それから皆さんの判断をいただくような手順で、よく検討して、これからの方向性を出していった方がいいような気がする。他の委員の方、いかがか。

D委員

統合場所を決める前に、九和小案のメリット、鴨部小案のメリット、玉川中案のメリット、小中一貫化のメリットを協議会で出し合い、PTAとして地域へ持ち帰り意見収集したいと考えている。

そのうえで地域の保護者が「どの案なら子どもを通わせたいか」「どの学校なら人が集まるか」を比較検討し、結果として場所が見えてくるのが望ましい。

もしこの会で「九和小に統合」と早期に決めてしまうと、鴨部側のモチベーションが失われ、公平な議論にならない。

場所を決めるのではなく、まず「案ごとの利点」を出し合うべき。

統合の議論は、教育委員会だけでなく、PTA、地域団体、観光協会、移住担当課、市長部局なども連携し、“玉川の未来の学校”のあり方を総合的に構想する場にすべき。例として、鈍川温泉との連携や移住促進策などもアイデアとして出てくると思う。

「日本一おいしい給食」のように、玉川小・中学校を“日本一の魅力的な学校”として発展させる可能性を探るべきだ。そのためには、現場教職員の負担感にも目を向け、教員が子どもを見る心の余裕を確保できる環

境づくりが必要だと思う。

玉川中では、新1年生の入部者がいない部が3つ、次年度以降、廃部・休部が見込まれるといった状況で、生徒や保護者は市街地に流出してしまう危機がある。

この現状を踏まえ、魅力づくりを先に行い、その後に場所を決めるべき。

結論として、まず「学校の魅力」「教育内容」「地域が望む未来像」を議論し整理する。その上で、統合場所（九和・鴨部・玉川中・新設を含む）を決めるべき。

事務局とは数字・教員配置・制度面などをすり合わせつつ、地域としての意見を積み上げながら「最良の学校」づくりを目指したい。

事務局

確認になるが、資料3の裏面に地元代表協議会の協議スケジュールを記載している。

今回（第3回）は「中間まとめ」の場として位置付けており、事務局が提示した2つの統合案について本日中に結論を出す場ではない。

今後、PTA総会などでの説明会、新年度の役員交代時期に合わせたアンケートなどを実施し、地域・保護者の意見を幅広く収集する予定。

次回（第4回）では、PTA説明会での意見、新たなアンケート結果を踏まえ、統合場所・学校の魅力化方策について改めて検討を深めていく方針と事務局として考えている。

会長

D委員に確認だが、資料3の、1番と2番の順番を入れ替えた形で、学校のあり方から議論をして、それから、場所とかそういうのを進めていったらいい、という意見でよいか。

D委員

はい。

H委員

小中一貫校の特色が多く示されているが、具体像が全く保護者には伝わっていない。

私自身の子どもが「支援学級」「不登校」である経験から、特色がどう統合校に影響するのか知りたい。

現在、支援学級には校区外から通う児童が複数おり、自然環境の良さ・小規模ゆえの手厚い支援が評価されていると感じている。

市街地の大規模校では合わない子（グレーゾーン含む）が玉川に来ることで救われる可能性があり、「のびのび学べる環境」を特色に含めるべきと考える。

玉川中学校が英語教育で特に有名という印象はなく、英語を強みとす

る理由や根拠を明確にしてほしい。

サポートルームの評価が高いという情報は聞いており、既存の良さ(支援・不登校対応など)も徹底的に調査して示すべきと要望する。

鴨部小学校周辺には広範囲の土石流警戒区域があり、危険性を懸念しており、また、玉川中学校も警戒区域に含まれる一方、九和小学校は比較的安全性が高いと感じている。

避難所としての施設(例:鈍川収蔵庫)の老朽化や利用の難しさが課題となるなら、「普段から稼働している校舎」の方が避難所として適切ではないか。

防災・支援環境を踏まえると、九和小と中学校の2拠点を活かす形が自然かと想像していた。

小学校から中学校に入る際の「時程の違い」「授業の流れのギャップ」など、具体的な現場イメージがつく資料を求める。

そうした情報があれば、PTAで共有し、保護者から意見を集められると思う。

教育長

H委員から思いを聞かせていただき、大変感謝する。

玉川町は自然が豊かで、40年前から地域住民が子どもの行事を見守る文化や温かい風土を持つ。こうした地域性を大切にしながら教育環境を守ることが重要であると考えている。

児童数減少や将来の不確実性への不安(D委員の指摘)も理解しつつ、「玉川町に小学校と中学校の両方を残したい」というのが事務局の最重要方針である。

統合しても小規模校である点は変わらず、小規模だからこそできる細やかな見守り、玉川中学校がすでに持つ手厚い指導を評価している。

小中が連携し、9年間を通して地域と教員で子どもを見守る体制を整えば、町外からも“玉川で学びたい”という魅力が生まれると考えている。

今後、統合場所を決めるにあたっては、委員から出る多様な意見を聞きながら慎重に検討していく。その際、玉川の自然・人情・風土といった“地域の良さ”を活かす教育環境を整えたいと考えている。

小・中学校の教職員が、玉川町で9年間子どもの成長を見守り続ける体制が理想的な教育環境と捉えている。

そのうえで、「小中一貫義務教育学校」といった組織変更は、もっと先の段階で検討すべき課題であり、現時点では焦らずご理解いただきたい。

I委員

玉川中学校は築33年で空き教室もあり、小学校の受入れは可能と(事務局は)説明しているが、特別支援学級や職員室スペースといった重要な点はまだ検討段階である点が不安である。

教育長	<p>2029年（令和11年）春には新しい学校で入学式を行う、という方向性がすでに決まっているように聞こえ、計画に変更の余地があるのか。</p> <p>昨年夏頃、菊間地区や玉川地区、大三島地区などの学校を、それぞれ統合するとの話を報道で耳にしたが、これらは正式に決定済みか。</p> <p>それぞれ（統合）対象となった地域の方々と、現在3回目の協議を進めている。これ以前の段階で、適正配置審議会で、玉川地域も統合が望ましいという答申をいただいて、その方向で進めている。</p> <p>その中で、どういった統合をするかというところで、必ずしも統合ありきではない。統合が望ましいという事務局の考えで、地域のご意見を今伺って3回目を迎えている。</p> <p>そのため、事務局から（統合が）確定ということではないと改めて申し上げます。</p>
I 委員	<p>理解した。</p> <p>現在の協議の流れが既に玉川中学校へ統合する方向に偏っているように感じる。</p> <p>保育園を卒園したばかりの子どもや低学年児童が、中学校の校舎設備で安全かつ快適に生活できるのか、疑問を感じる。階段の高さや動線、教室の配置など、施設面の使い勝手が小学生向けではないことを懸念する。給食量の調整ミスなども懸念に入る。</p> <p>そのような小学生と中学生の生活仕様の違いに起因する問題が起きる可能性を危惧しており、問題が起きたら謝罪で済む話ではない。</p> <p>施設の適性や運営のリスクを十分に検討しないまま統合を進めることに強い不安があり、もっと具体的・実務的な検討を深めるべきである。</p>
C 委員	<p>事務局に確認したい。費用的にその新校舎を建てるという話も出たが、そもそも土地とか、建物とか、現実的に対応できるのか。</p>
事務局	<p>原則的には、新校舎の建設というのは今回考えていない。</p> <p>既存の校舎をリニューアル（改修）して、統合校として使うという方向を考えている。</p>
C 委員	<p>ということは、そもそも協議の中で新校舎の設立案はない話なのではないか。</p> <p>中学校への統合、あるいは九和小・鴨部小への集約を議論しているが、現実には、統合に伴う施設整備や環境づくりを十分に行える財政的裏付けがあるわけではない（地域・保護者が直接費用負担する訳ではない）。</p>

統合後にどこまでの環境整備が可能なのか、「できること」「できないこと」を事務局側が具体的に提示する必要があると思う。

具体的な可能性や制約が示されなければ、メリット・デメリットやこれからの玉川の方向性、小規模化への対応方針など、本来議論すべき内容が前に進まない。

現実的に何が可能なのか、を明確にしたうえで、未来像やビジョン、メリット・デメリットを議論すべきと思う。

事務局

基本的には、新築ではなく、既存校舎の改修を基本方針としている。

約10年前にも学校統合の協議があり、「統合する学校(場所)を決め、その校舎を整備して使う」という考え方が基本であった。

もちろん小学校・中学校どちらの校舎も現状のままでは統合校として利用するのは難しいと考えている。

ただし、何十年先に、全地域を対象とした学校再編(適正配置)を改めて検討する時期が来れば、新築など別の手法を採用する可能性も十分あると思う。

E委員

私はD委員が延べたような幅広い提案の中から統合の姿を考えたい。

また、統合案を検討するにあたり、資料だけでなく実際に現場を見て判断すべきだと思う。具体的には、八幡から九和小までの通学路や玉川中学校校舎の階段の高さが、低学年児童が安全に移動できるものか、など現地を歩き、現場の課題を把握することも必要だと思う。

また、新築はしないが改築は行うという説明があったので、どのような改築が必要か、委員から積極的に提案していくべきだ。

この協議の場だけで議論するのではなく、日常的に現地見学を企画し、希望者と一緒に視察するなど、実際の環境を確かめる行動が必要と提案する。

B委員

九和地区自治会長として、九和小学校の学校運営協議会委員も務めている中で、過去に清水小学校から不登校だった児童が九和小に転入後、登校できるようになったという。九和小は支援を必要とする子どもを受け入れ、環境が合えば改善している実績がある。

玉川中学校への小中統合後、特別支援学級がどうなるのかが、まだ不明と説明された点を危惧する。

現状、市街地から特別支援児童を受け入れている九和小学校の役割を踏まえると、統合後の支援体制が不透明なままでは場所の議論が成り立たない。

特別支援の状況も含め、統合に関わる今回の問題が整理されない限り

	<p>議論は進まないため、統合場所の決定を明確にしなければ、先に進めない。</p> <p>他の委員も言われたが、学校統合は地域の将来に直結するため、教育だけでなく、まちづくり全体の将来像を含めて議論すべきと思う。</p>
会長	<p>先ほど事務局から説明があったが、九和小学校と鴨部小学校は築何年になるのか。</p>
事務局	<p>鴨部小学校が47年経過、九和小学校46年経過ということである。玉川中学校が33年経過である。</p>
会長	<p>新築する予算はないと言われたが、鉄筋コンクリートの建物でいうと建替えの目安は55年ぐらいか。</p>
事務局	<p>今、施設の長寿命化の事業も進めており、かなり長く校舎も使えると思っているが、それが何十年かとは、正確にはお示しできない。</p> <p>場合によっては80年ぐらいもつようなケースもあると思っている。</p>
会長	<p>吹揚小学校が新設された際、校舎設備が非常に充実しており、九和小・鴨部小と比べて大きな差を感じた。</p> <p>各階に6室ずつのウォシュレット付きトイレ（男女・障がい者用）が設置され、保健室には身体障がい者用シャワールームも備えていた。</p> <p>こうした設備の充実度を踏まえると、既存校舎の改修だけでは設備面で見劣りする可能性があるため、建替え（新築）が想定される期間について説明を求めた。</p>
C委員	<p>次回協議会が5月中旬予定であるため、それまでに保護者説明会を実施するよう要望する。正式な場での周知と、保護者が事由に質問・意見を述べられる時間が必要と思う。</p> <p>保護者が理解しやすいように、統合の経緯、第3回協議会までの進捗、現在の統合案（可能であれば鴨部小案も含める）、各案のメリット・デメリット、統合後の未来像（学校像・教育環境）を明確に説明することを求める。</p> <p>先ほど議論に出た「チャイムの運用」についても、他校の事例（例：ノーチャイム校）などの質問が出るのが予想されるため、答えられるように準備いただきたい。</p> <p>保護者が学校の将来像を具体的にイメージできるよう、分かりやすく整理された資料・回答を準備した説明会にしてほしい。</p>

事務局	<p>日程を調整のうえ出向くので、要望などあれば、何なりとお申し付け いただきたい。</p> <p>また必要な諸資料等も準備させていただく。</p>
会長	<p>九和小学校も同じような形でよろしいか。</p>
G委員	<p>帰って話し合っ、もし必要であれば、願います。</p>
会長	<p>各小学校で持ち帰っていただき、細かいところを（事務局からでも） 説明いただき、アンケートをとり直すような形で進めていくということ でよろしいか。</p> <p>他の委員の方、それでよろしいか。</p> <p>（委員 了承）</p>
会長	<p>そしたら本日の会は、結論が出ていないが締めさせていただく。</p>
事務局	<p>最後に1つ、次回の開催だが、4月に入り新しいメンバーで改めて日 程調整をさせていただく。</p> <p>また第2回協議会后に1度、「支所だより」を配らせていただいた。</p> <p>それで、この状況につきましては、いかが（また支所だよりで周知す るか）というところである。</p>
会長	<p>話があまり進んでないので、今回は（配布なしで）いいんじゃないか と思う。</p>
事務局	<p>それではまた、委員の変更等あれば、地域教育課までご連絡いただき たい。</p>
会長	<p>委員が交代される方は、引き継ぎを、資料も含めてよろしく願います る。</p> <p>資料が必要な場合は、事務局から送ってもらうなど対応いただきたい。</p> <p>また年度変わって、細かな打ち合わせをしてもらいアンケートもとっ てもらい、議論を進めていければと思うので、よろしく願います。</p> <p>本日は長時間にわたってどうもありがとうございました。</p>

以上、会議の次第を記し、その相違ないことを証するため署名する。

令和8年 3 月 12日

青野 委員 青野 宗三

富田 委員 富田 洵也

